

お茶会に招かれた時の装いと心得

お茶会に招かれた時に和装か洋装かを心配されるかも知れません。茶の湯ではやはり和装が本来ですからそれに越したことはありません。しかし現代では、正式なお茶事のお呼ばれではなく大寄せのお茶会に出席されるのであれば、和装がご無理な場合にはお茶席に相応しい装いであれば洋装であっても仕方が無いと言わざるを得ないでしょう。(お稽古に関しては、初めは洋装でも結構です。御無理をなさる必要はありません。)

基本的な考え方としては、茶の湯は本来的には日本の伝統的なフォーマル・パーティーですから、和のフォーマルな場面にふさわしい簡素にして品格ある装いをお心掛け頂いたらよろしいかと思えます。

具体的に申し上げますならば、男性の場合は、基本的には上着とネクタイを御着用いただいたほうがよろしいでしょう。お茶会等ではスーツがよろしいかと存じますが、何度も正座をいたしますと膝部分が抜けてしまったり擦れて白くなることもありますので、お茶会や軽めのお茶会の時にはストレッチ素材の替えズボンになさると足も少し楽になります。

女性の場合は、正座をした時にひざ頭がスカートの裾で隠れて裾が畳に着く程度の丈の、フレアーかプリーツのスカートと、上は、夏場は半袖でも結構ですが袖があり、襟元・首周りが開いていないものをお召しいただきますようお願いいたします(盛暑の砌にはノースリーブをお召しになることもお有りかも知れませんが、そのような場合には薄手のカーディガン等を羽織っていただきますようお願いいたします)。条件を満たしていれば、ワンピースやスーツでも結構ですが、デニムやパンツ等はスポーティー、カジュアルに通じますし、お座りになると御本人がお辛いです(強く足が痺れます)からお避けいただいたほうがよろしいかと存じます。(またスカートの丈も、お立ちになって鏡に映された時には大丈夫でも、座られると意外に丈が上がってしまい膝頭が出てしまうこともあります。お出かけ前に一度お座りになってみて御確認いただけますようお願いいたします。)

ご承知のように、茶の湯のお点前の折には袱紗を腰につけますので、お稽古の時にウエストにベルトのないワンピース等をお召しの場合には、必要に応じてベルト、紐などをご持参いただく必要がある場合もあります。

また、日常の装いからすると少し奇異に映るかも知れませんが、お茶会の会場に到着して履物をお脱ぎいただいて屋内にお上がりいただく時に、白いソックスを御用意いただいてストッキングの上からお履きになると良いでしょう。これは、和装の場合に、お茶席到着時に屋外を歩いてきて汚れた足袋を綺麗な足袋に履き替えるという訓えに因っています。加えて、お茶席

では他の方の視線が足元にいく場合が多いものですが、洋装の場合のストッキングは生地が薄くて素足の感覚に近く、また畳を摺り足で歩かれると伝線もしやすいでしょう。それらを防止する意味からも、お茶会に出席される場合には必要なことであり、あるいは普段のお稽古の時から習慣づけていただくとうよろしいでしょう。(お稽古の時には、洋装でいらしても足元だけ足袋に履き替えられることを推奨いたします。)

男性の場合にも、白色であるか否かは別にして、同様の考え方ができるでしょう。

いずれにしても、お茶席に入られる時には靴を脱がれることとなりますから、清潔で新しい靴下をご用意いただくことが肝要でしょう。

さらには、女性には些か御無理なお願いになるかも知れませんが、特に現代においてはなおさらのことですが、可能な限り指の爪は短くお切りいただいて、マニキュアも原則として無しに、なさったとしても無色透明なものを御使用いただくのが理に適っていることと思われます。

また、特にお願いしなければならないこととして、香水等香りの強い化粧品はお使いになりませんようご注意くださいませ。お香やお茶の香りの邪魔にならないようお気をつけくださいませ。また、口紅はお茶碗につかないものをお使いいただきますようお願いいたします。

茶道未経験の方がお茶会に招かれた場合、小菊紙といわれる懐紙と扇子(茶席用の小振りのもの)くらいは最低限御用意いただいたほうが良いでしょう。袱紗も御用意いただければそれに越したことはありませんが、普段からお稽古をなさっていらっしゃる限りは無用の長物となりかねませんので、無理に揃えられなくてもよろしいでしょう。和装小物のお店に行くと懐紙挟み(袱紗挟み)と称してこれらの小物の入れ物を売っていますから、お好きなものを一つ求められるとうよろしいでしょう。

それから、お流儀によってはお菓子を召し上がる時にお使いになる楊枝のようなものを御用意になる場合もありますが、江戸千家の場合には正式にはこれを使いませんので御用意いただかなくても結構です。

それ以外には、ハンカチと先に申し上げた白いソックスくらいでしょうか。

お稽古の場合には、懐紙、扇子、袱紗をご用意いただくことは申し上げるまでもございませませんが、流儀の袱紗は市井では市販しておりませないので、ご入門時には先生にご相談いただきますことをお勧めいたします。

最後に大事なお願いですが、お席に入られる時には貴金属等の装身具は全てお外しいたゞき、時計も忘れずにお外しくださいます。特に指輪、ネックレス(特に重く大きなヘッドが下がったもの)は忘れずにお外しくださいます。また老婆心ながら、お外しになった指輪、ネックレスなどの小物が紛失しないように、指輪入れなどをご用意いただくと便利かも知れません。近年、携帯電話がお茶席に持ち込まれることが多く見受けられるようになりましたが、これもご遠慮いただきたく存じます。寄付(ヨリツキ)に置いておかれたり、あるいは荷物としてお預けになられる時にも電源をお切りいただくようお願いいたします。

さらに、以前から時々目にしていたことで特に最近目に余ることは、お茶席の中でのカメラの使用です。本来、お茶席の中の出来事はその場限りでのことであり、それ故に緊張感、求心性、集中力というものが生まれる訳ですが、その意味でカメラはお茶席には相容れないものという事ができます。どうしても記念に撮影がしたい場合には、席主に許可を得た上で情景写真としてお撮りになるのがよろしいでしょう。点前中や、お道具、茶花などをお撮りになるのはタブーです。ましてや、その撮影のために周囲の人を遠ざけさせたりするのは本末転倒、言語道断と言わざるを得ません。

お茶席は、日常とは切り離された非日常、ハレの場です。それ故に手水、塵穴、躡り口等といった幾つもの結界を通過して心身を清めて聖なる場であるお茶席に進み入ります。そこに日常の延長となる時計、携帯電話、カメラ等を持ち込むことは厳に慎まなければなりません。また同時に、お茶席の中での出来事は非公開であることが本来ですから、その原則にもまた心していただければ幸いです。

以上、いろいろと煩雑なことを書き連ねましたが、お茶会にいらしてから恥をおかきになったり失敗をされたりすることの無いよう、心の準備のためにもあえて蛇足を書き連ねました。悪しからずお許しくださいます。